

冒険キャンプがサッカーユニアユース選手の思いやりの行動に及ぼす影響 ～上級生のソフトスキルに着目して～

岩井 蓮太(生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 黒澤 毅

キーワード：思いやり，キャンプ，ソフトスキル

1. 序論

現代の日本の子供の成長と徳育をめぐる今日的課題として、若者・子供たちの他者への思いやりの心や迷惑をかけない気持ちが低下の傾向にあることが指摘されている。一方、サッカーなどのチームスポーツは個人の身体的な基本技術はもちろんだが、コミュニケーションやリーダーシップなどのいわゆるソフトスキルが重要になってくる。その中でも思いやる心はチームを一つにし、試合に勝つための重要なポイントになってくる。

そこで、本研究では、冒険キャンプがサッカーユニアユース選手の思いやりの行動に及ぼす影響を明らかにするとともに、上級生のソフトスキルと思いやりの関連性について検討することを目的とする。

2. 研究方法

【対象者】総合型地域スポーツクラブの B サッカークラブに所属する中学 1, 2, 3, 年生のうち、2016 年 8 月 7 日から 10 日にかけて行われたキャンプに参加した中学生 52 名のうち、アンケートに不備があった 2 名を除いた 50 名を分析対象とした。

【調査】思いやりアンケート：内田²⁾が作成した思いやりアンケート 4 因子 22 項目をキャンプ前・キャンプ後の計 2 回で実施した。

キャンプ中の思いやりアンケート：内田²⁾が作成した思いやりアンケートを筆者が独自に作成した 11 項目をキャンプ 1, 2, 3 日目の夜の計 3 回で実施した。

ソフトスキルアンケート：吉村⁴⁾、谷井³⁾、牧野¹⁾のアンケートを筆者が独自に作成した 15 項目をキャンプ前・キャンプ後の計 2 回で実施した。

ふりかえりシート：対象者の意識・行動、またその背景を明らかにするために筆者が独自に作成したふりかえりシートを毎晩とキャンプ後に実施した。

3. 結果及び考察

1) 思いやりについて

キャンプ前後の変化をみるために t 検定を行った。その結果、キャンプ前後で 0.1%水準で有意な差がみられた。すなわち、キャンプ開始時からキャンプ終了時にかけて、思いやりは向上した(表 1)。キャンプ中の思いやりでは、1 日目から 2 日目にかけて 1%水準で有意に向上した。2 日目から 3 日目にかけては 0.1%水準で有意に向上した。1 日目から 3 日目にかけて 0.1%水準で有意に向上した(表 2)。キャンプ

を通じて自分を見つめ直し、集団を形成して過酷な活動や生活を仲間と過ごすことにより、集団意識やチームワークが生まれ、仲間への思いやりが育まれたのだと考える。

表1 思いやり得点の平均と標準偏差

対象者	N	pre		post		t値
		M	(SD)	M	(SD)	
思いやり	50	70.68	(6.99)	75.04	(6.95)	-4.05 ***

***:p<.001

表2 キャンプ中の思いやりの平均と標準偏差

対象者	N	1日目		2日目		3日目		F値
		M	(SD)	M	(SD)	M	(SD)	
思いやり	50	39.20	(4.19)	40.66	(4.46)	43.40	(4.42)	57.32 ***

***p<.001

2) 上級生ソフトスキルについて

キャンプ前後の変化をみるために t 検定を行った。その結果、キャンプ前後で有意な差は見られなかった。すなわち、キャンプ開始時からキャンプ終了時にかけて、上級生のソフトスキルには変化がなかった。本研究におけるキャンプは、日常のサッカーチームと同じ選手で行っているため、普段のサッカー場面からリーダーシップやコミュニケーションなどのソフトスキルを発揮しているためキャンプ前からソフトスキルが高く有意な向上が見られなかったのではないかと考えられる。

3) ソフトスキルと思いやりについて

上級生ソフトスキルと選手の思いやりには関連性がみられなかった。上級生のソフトスキルはキャンプ前から高かったため、本研究の結果だけでは、ソフトスキルと思いやりについて関連性をみることはできなかった。

4. まとめ

冒険キャンプを行うことで思いやりは向上したが上級生のソフトスキルとの関連性はみられなかった。本研究では、サッカーユニアユースの 1 チームの選手を対象にしたため今後様々な対象にも調査の対象を広げる必要がある。

【引用・参考文献】

- 1) 牧野幸志(2009)：中学生を対象としたコミュニケーション・スキル訓練の開発(1)－中学生のコミュニケーション・スキル、精神的健康の性差、学年差の検討、経営情報研究、第17巻第1号、P.1-16
- 2) 内田由紀子・北山忍(2001)：思いやり尺度の作成と妥協性の検討。心理学研究第4号、P. 275-282
- 3) 谷井孝一(2001)：小・中学生用自然体験効果測定尺度の開発、野外教育研究5-1、P. 39-47
- 4) 吉村孝(2005)：部活動への適応感に対する部員の対人行動と主将のリーダーシップの関係、教育心理学研究、P. 151-161